

茨城県水戸市立笠原小学校（学校長 島田 れい子）

実施日	平成20年2月22日（金）	時間	午前10時～午後3時
実施場所	体育館、教室	対象/人数	1～6年生 508名
担当教諭	吉澤 洋子	通訳	湯原 敦（JICA職員）
講師	ドルジ（ブータン）/ハルーン（バングラデシュ）/ジョージ（ニカラグア） エミリー（ケニア）/トイヤ（タジキスタン）/パオ（サモア） 以上、JICA研修員		

活動内容

児童が外国人と直接ふれあうことにより、理解と交流を図る。

外国のゲームなどを通して、異なる文化の理解

日本文化の紹介、日本の遊び紹介

会食

児童の感想

・ドルジ先生から地球儀でブータンの場所を教してもらいました。ブータンは、日本から遠くて小さい国ということが分かりました。いっしょに給食を食べました。

・エミリーさんとやった大縄跳びが、とてもおもしろかったです。ケニアの方と聞いた時は、びっくりしました。ケニアの方とふれあうのは、初めてだったので楽しかったです。ブータン、バングラデシュ、ニカラグア、タジキスタンやサモアという聞いたことがない国や島があったので、「こういう国や島があるんだなあ。」と思いました。とくにニカラグアという国が気になりました。

・よさこいソーランロックでは、はっぴを着て外国の人にかっこいい踊りを見せられてよかったです。きれいなりコーダー演奏「オーラリー」を聞かせることができてよかったです。いろいろな国の方のお話が聞けていい思い出になりました。

・初めて会った国の人とは、言葉が通じないと思うと緊張してなかなか近くに行けなかったけれど、外国のお客様がぼくに握手をしてくれたのでほっとして、いつの間にか言葉が通じて仲良くなることができました。

先生の感想

・ケニアの方は、英語で話してくれ、子どもたちも英会話で学習した会話を使って質問をしたり、答えたりしたのでとてもいい経験ができた。

・同じアジアの人間だという意識を高めることができた。

・英語になまりがある方や英語が通じない方がいたので

意思の疎通を図るのが大変だった。

・いっしょに大縄跳びをしたり、ゲームをしたり

して交流することができた。

成果と課題

・異文化交流会「ワールドキャラバン」を実施したことにより、「もっと外国のことを調べてみたい。」「他の国はどうなのだろう。」など、外国への関心が高まり、子どもたちの学習意欲が高まった。

今後もこのような機会を活用し、外国の方々とコミュニケーションを図ったり、外国の文化に触れたりすることができるようにしたい。

